

〔共済連だより〕

哲多和牛牧場3人娘

西部家畜診療所新見支所 本田 直樹

哲多和牛牧場は繁殖牛280頭、哺育150頭、育成牛15頭、肥育950頭を飼養する、岡山県北西部屈指の牧場です。今回は、西部家畜診療所の一押し、哲多和牛牧場の3人娘を紹介したいと思います。3人の担当は、哺育育成です。

写真左、三谷綾さんは、入社4年目ベテラン、哺育担当のリーダー格です。子牛達にとっては、時には厳しく優しい善きお母さん(独身)です。苦勞する点は、「季節の変わり目の、下痢及び肺炎は、小さい子牛にとっては生死に係る問題で、飼養管理に神経をつかいます。育成牛、肥育牛及び繁殖素牛の飼養管理をし易い様に、しっかり飼養管理に努めたいです。将来は繁殖和牛を飼いたいし、放牧している姿をみたら感動します。」

写真中、砂田恵さんは育成担当、入社2年目、あまえんぼうで、のんびりタイプです。「安定した飼料給与にところがけています、小さい牛達の体調管理には気を使います、例えば肺炎及び下痢、また餌の切り替え時の下痢等々です。月齢にあった発育をさせたいし、健康で丈夫な子牛を作りたいし、肥育に編入しても良く食べる子牛を作りたいです。」

写真右、河田叔恵さん、先ほどの二人をサポートします。この4月入社したばかりで、何事も、無我夢中、一生懸命です。「教わる事がいっぱい混乱する事もあるし、子牛の病気がでたら、まず二人の先輩に相談し、教えてもらっています。哺育育成、飼養管理も少しずつですが、場面、場面の対応も分かるようになってきました。例えば餌の切り替え、餌の増減等々。将来は出来れば繁殖和牛を飼ってみたいです。」

小坂場長は、「哺育、育成は、子牛への接し方は、3人独身ですが、まるで母親のそのものですね。女性ならではの細かい飼養管理で気をつけてくれています。」

また男性従業員の塚原さんによれば、「時には、休憩時間も忘れて仕事しています。熱心なところもあるし、3人とも仲良くやっているなあ、と思います。」3人に共通している事は、中四国酪農大学を卒業しているため、基礎は既に出ています。牧場の仕事はどの部門も大変です、命を扱っている訳ですからです。特に哺育育成は、病気に対して弱くて、発見が遅れると重篤な状態に陥る事もあります。彼女等の優れているところは、観察力と圧倒的な記録です。規模が大きくなると機械的な飼養管理に陥りがちですが、いやそうではなく献身的な飼養管理で凌いでいます。往診時、彼女らの記録を見せてもらった時に、きめの細かい緻密な記録には圧倒されます。

また、向学心も旺盛で専門誌、講習会等で知識を身につけ時々、呼吸器病、消化器病の際は、当方と一緒に聴診しさらに実技学習をしています。3人とも「本当に、牛が好きだなあ。日常の飼養管理もさることながら、病気の早期発見、看護等々が、事故低減につながっているのだなあ。」と実感するとともに、今後も、彼女らの頑張りに期待したいと思います。

